



2008/8/1 No.48

発行者：社会福祉法人 ミッドナイトミッションのぞみ会
本 部：〒293-0023 千葉県富津市川名1436番地



愛と算盤

監事 坂本 文夫

平成十三年四月から望みの門の仕事に關わってきました。最初の二年は本部事務局の職員として、その後は監事として関係しております。福祉に關わって一番感じていることは、福祉の仕事は非常に重要で大変な仕事ですが、社会的な評価が必ずしも高くないという事です。

マスコミでも福祉の現場の過酷な労働条件が取り上げられ、仕事の質に比して賃金が低く将来に不安を感じ、転職せざるを得ないという実態が報道されます。福祉の現場で働く人々が将来も安心して働ける環境なくして、日本の福祉の未来はありません。

これは大袈裟に言えば国家的課題です。放置しておけば益々「福祉後進国・日本」を内外にアピールすることになるのではないのでしょうか。各施設の経営努力は勿論必要ですが、それ以上に政治、行政の力による問題解決が望まれます。しかし、現実には逆です。政府の福祉予算の削減は福祉施設の経営を圧迫させ、利用者への質の高いサービスの提供が困難な状況になってきています。

国の福祉政策への不満をいうだけでは単なる犬の遠吠えに終わってしまいますので施設運営のポイントについての考えを述べてみた

いと思っています。

如何なる企業、組織の運営においても、愛と算盤が大切です。しかし、昨今の企業の不祥事は、愛を忘れた算盤・利益追求のみの経営姿勢の結果ではないでしょうか。

愛とは、事業を通じて地域、社会へ貢献すること、利用者から望みの門を利用してよかったと思われることです。これが社会福祉法人の使命・ミッションであり、まさしく、キリスト教の愛、隣人愛の実践であると思います。

望みの門が行政、社会、近隣住民から高い評価と信頼を得ているのは、キリスト教の愛の精神がその中心に在るからだと確信しています。

しかし、愛の精神だけでは事業は継続できません。利用者へのより良いサービスの提供、職員の給与等の労働条件の向上、将来事業の準備のために、社会福祉法人といえども一定の利益を確保していかなければなりません。

望みの門は近年幅広く事業を拡大し、利益を確保できる基盤が整ってきていると思います。各施設は利用者の拡大を図り収入を確保し、無駄な費用を削減して収支の改善を図るために、引き続き努力されますことを期待しております。

本年から施設長の年俸制が導入されました。このことは単に月給が年俸に変わったというのではなく、施設長に経営者としての役割が期待されていることだと思っています。



望みの門の 働きを終えて

前望みの門楽生園施設長

中村 親之

卓上に一枚の写真、カセットテープそして二五冊の黒表皮のダイアリーが有ります。写真は二五年前の望みの門楽生園の七月の誕生会で木下弘人初代園長を中心として左右に誕生月を迎えた二名の利用者さんその脇に同じ七月生まれのパーマ頭の私が写り皆は顔中笑顔です。二五冊のダイアリーは私の望みの門生活二五年の全記録です。

「生活」と書きましたが、園内の会話が聞こえる隣接の職員宿舎から始まり常に生活の一部として家族全員が利用者さんとの交わりのある生活をしたとの思いからです。

今、不思議と二五年前の五〇名の利用者さんをはじめ多くの利用者さんの笑顔と楽しかった光景が眼に浮かびます。それは利用者さんが何も知らなかった私を暖かく受け入れてくれたことが新鮮な驚きであったこと、又今までの利用者さんとの交わりが私の人生観を変えたことによると思います。

こんな事がありました。隣接の宿舎に居りましたが勤務を終え宿舎に帰りましたところナント夜食の料理がテーブルに用意されていました。ビックリ仰天で戸惑い恐る恐る食べますと、まさにそれはお袋の味で美味しかったこと。後で園の利用者さんが庭で育てた野

菜を、開けっ放しの玄関から持込み料理したことが分かり、二度ビックリしたわけですがに家族としての生活の場であったわけですから。今でも望みの門楽生園には職員の働きを支えるこのような家族的な雰囲気の色濃く残っています、この事は大切な伝統だと思います。

二五年を振り返るにこの間私はこんな事をしたあんな事をしたと誇れる事は無い者ですが、皆さんに支えられて大過なく職務を果たすことが出来ました感謝です。幸いにして比較的長く福祉事業従事者として福祉に係わった事から行政・団体等から感謝状・表彰状をいただきました。県高齢者福祉施設協会の施設長さんの皆さんからお祝いの会を頂いた際に私はお礼の言葉として「関係者の皆さんとお交わりと支えに感謝すると共に、何よりも長い間楽しく福祉の仕事させて頂いた事が宝です。」と申し上げました。望みの門に一緒に働いた多くの職員の皆さん、千葉県内の働きを同じくする施設長さん職員の皆さん、地域の行政の方、ドクター、看護師さん、ボランティアの皆さん、利用者の家族の皆さん、そして沢山の利用者さんに感謝いたします。

卓上にあるカセットテープは、木下弘人初代園長が毎朝園内に放送したメッセージのコピーです。弘人園長は毎週土曜日の夜に一分ほどのメッセージをテープに収め、翌日から一週間朝の時間に園全館に流しました。メッセージの内容は聖書の言葉と季節の話題、思い出の人物等多岐にわたる素晴らしいお話

です。このテープの中に「新しい職員を迎えて」と題してのメッセージがあります。私も赴任の際同じメッセージをいただきました。聖書の箇所は使徒言行録一章一四節で、お話は「利用者の皆さんと新しく加えられた職員、そして係わる職員と共に神様にお祈りする、そこに神様からの恵みによる素晴らしい一日が与えられる。」の言葉をもって閉じられております。これからも望みの門はこの初代園長の姿を思いつつ歩まれることを熱望いたします。

望みの門 かずさの里 日独子ども・家庭アカデミー

(略称ピーターパンの会)



天与の望みの門かずさの里が誕生してはや三年を迎えた。子ども達も二名から定員の三〇名には一年とかならなかった。今年度は私立高に二名が進学したが指導にあやまりがあったとは思えないが何故隣りの県立天羽高ではいけなかったのか、些か甘い気がする。教育の自由、受ける自由、選ぶ自由もあろう。しかしだからと云っていかに本人希望とは言え、電車・バスを使って遠いところまで通学させるのが親心なのか。

― 閑話休題 ―

いかなる理由があっても、子が親と一つ屋根の下で生活を営めないのは矢張り不幸であらう。これは一般論である。親が様々、千差万別の理由で親たり得ない場合、子の不幸ははじまるのは洋の東西を問わぬ。それは判り切ったことではあるが、子どもは一人で生活できないからである。歴史的には孤児の社会的対応は奈良時代の律令に明記されている。

現代、孤児は一〇％以下であり、大半が親の事情から施設にくる時代となっている。家庭をはなれる理由がどんな理由であっても、わが家の子どもとなった以上は全力を傾注して立派な社会人として世に出したい。それが時代をなう子への大人の責務と言うべきものであらう。そのためには一法人、一施設では限りがある。それでも措置費内で結構やっていけ「里」での生活はかなりの上級に位置していよう。毎日の食事は栄養士と一流板長の合作であり、食育を運営の基としている。では何故、応援団が必要なのか。それは次の

理由による。

1. 「里」の存在意義は「負」受身でなく、法人のぞみ会をしてこれを社会的に積極的意味づけが求められていると考えるからである。何故、日本社会がかくも乱世のように、親子、会社、学校で信頼関係を失くし、弱肉強食の様相を示すようになったのか。現代の病理現象には様々な要因が云われているが、この子らをして、社会を良きものとする自立能力のある感性豊かな社会人として送り出すことができれば少しでも世の中が良くなると信じるからである。

2. そのためには「里」は日本一の教育共同体でなければならぬ。二歳から二〇歳までの全員合宿の生活グループと考えればこれほど恵まれた環境はない。年長者が幼いものの面倒をみる。血縁を超えた人間としての結縁こそ本当の家庭ではないか。(マタイ12・50)

3. 最高の教育共同体としての「里」は本来の家庭をも形成する場である。職員はいかに頑張っても子等の親にはなり得ぬが愛情により子等の感性を涵養し、家庭と同等もしくはそれ以上の環境を提供し得る存在であり、ここに専門職としての喜び生甲斐を有するものである。

これらの理想現実のために、二〇〇八年七月一九日(土)一五時「里」のカナに於いて地元有志四〇名余の出席のもと「望みの門かずさの里」子ども家庭アカデミー」の設立総会が行われた。詳細については次号に譲る。

その主たる事業は次のとおり

- a. 望みの門かずさの里支援
- b. 教育基金一億円の達成
- c. 日本とドイツの福祉青年の交換研修
- d. 子どもと家庭に関する研究発表及びセミナー等の開催

運営については会長に藤富孝氏(山九運輸)が選ばれ、幹事には伊東親氏(伊東建設)小泉とき氏(法人理事)森田雄司(児童養護施設長)宮澤義夫(君信役員)宇野武夫(建築家)岡本忠之(法人常務理事)坂井栄一(法人役員)吉田和子(教員)広田賀寿恵(湊婦人会)大野康代(大貫婦人会)大野佳志子(富津婦人会)福原好子(赤十字婦人団)が予定されている。これらの事業は法人と密接な連携のもと運営されなければならないのは当然である。又、日本とドイツについては法人設立にあたり多大の貢献をされたのが木下ドーラ先生であり、私事になるが筆者とビーレフエルト市の福祉の町ベートルでの出会いが縁となり、今日があるため、まず共に第二次世界大戦を戦い、戦後灰じんに帰したベルリンの復興をはじめ今日のヨーロッパ経済をリードするドイツ文化に少しでも触れて貰いたいからである。

ともあれ本会をして地域の人々の福祉の思

いが満たされ、児童養護施設の隠れた社会的役割が社会に認められることになれば幸いである。



常務理事 井本 義孝

バザー報告

バザー実行委員長 田尻 隆

主なる神は言われた。「人が独りでいるのは良くない。彼に合う助けける者を造ろう。」(聖書 創世記2・18)

梅雨入り直後の六月七日(土)、心配した天気は見事な快晴となり「望みの門バザー」を盛大に開くことができました。その準備は四月に開催した第一回バザー委員会から始まります。こ

れから望みの門各施設から集まったバザー委員と一緒にバザーを作っていくことになりました。しかし、少々気になることが。どの委員も元気がないというか、疲れている顔をしているのです。



確かにそれぞれの施設で日常業務に追われている中、さらに「バザーのために力を出そう」というのは無理があるのかもしれない。委員長としては少々孤独感をもった会議となりました。しかし数日後、ある職員から「バザーの準備をやりますよ。あれはこうして…これはああして…」と声をかけられたのです。やはり神さまは「委員長が独りでいるのは良くない。彼に合う助けけるものを作ろう。」と非力な委員長を助けて下さったのでした。その後は目を追って次々と望みの門バザーの助け手となる皆さまが現れてくださいました。今回も尊い献品をたくさん皆さまから頂戴いたしました。事前の準備から当日の運営までを支えてくださったボランティアの皆さま。イベント広場では「君津ロータリークラブ」の皆さまに素敵な演奏とダンスを披露して頂きました。また地元アマチュアバンド「Mush-Room」の三人は青空のもと透きとおる歌声を存分に聴かせてくれました。富津保育園の元気な子どもたちによる「わくわく太鼓演奏」は今回のバザーを大いに盛り上げてくれ大好評でした。そして当日暑さの中、足を運んで頂いたたくさんのお客様。当初不安を覚えつつ取り組んだ望みの門バザーもあったという間に準備の時間が過ぎ、大盛況のうち終了いたしました。

おかげさまで昨年に実施した望みの門かずさの里バザーと合わせ一八七万円もの寄付を頂くことができました。望みの門は子どもから高齢者まで、障害のあるなしに関わらず、

そこに集う多くの人々に支えられ歩んできたことを改めて思いました。

望みの門創設者の木下ドーラは法人四〇周年記念誌に以下のよう

に述べています。「神さまは不思議な方法で『神さまの時』を私たちに示してくださいました。望みの門学園建設のために必要な資金は、私たちにはありませんでした。不安のなかにあった時、最初に寄せられた寄付金は九州のお寺の尼僧からの二千元でした。養護老人ホームを作る際には、『芝生』と称する方(いまだにそれがどなたかわかりません)から送金された三万円が与えられました。そして特別養護老人ホームを作る構想がすすみ、その費用の莫大さに不安が募った時、私は『婦人保護施設の時』は二千元、養護老人ホームの時は一八万円を与えてくださいました。もし特別養護老人ホームを作ることが神さまのご計画でした



望みの門バザー収支報告書

単位：円

収 入	支 出
中古衣料 556,504	材料費 421,596
雑貨 751,631	通信費 42,100
ベーカリー 140,090	作業代 103,010
屋台 556,939	雑費 275,236
喫茶 115,510	
手芸品 147,900	
雑収入 17,852	
寄付金 364,000	小計 841,942
小計 2,650,426	法人寄付 1,870,000
前期繰越金 280,866	次期繰越金 219,350
合計 2,931,292	合計 2,931,292

以上のとおりご報告いたします。

ら、○をもう一つ増やしてお示しください』と神さまに祈りました。するとある方から三〇万円の献金が届けられたのです。(中略)

このように、のぞみ会の四〇年の歴史どこを切ってみても、その切り口には鮮やかに『神さまの時』が示されています。どんなことにも、どんなときにも、人間の計画や人間の不安を超えて、神さまはご自身で『時』を備え、ご自身で計画を進めてこられたのです。

この神さまの計画のために多くの人が用いられました。ご本人はそうと気付かなくても、神さまがご自身の計画のためにお用いになった方々もたくさんいます。それらの一つひと

つが小さな鎖の輪のようだと思います。一つひとつの時、一人ひとりの人が小さな輪を作り、それを最良な時に最良な方法で用いて、神さまはご自身の計画を壮大な鎖として編み上げてこられたのです。これがのぞみ会の歴史です。この鎖はこれからもさらにつながり、編み上げられていくに違いありません。その時々、神さまはご自身のお選びになる人と方法で輪を作り、鎖を編んで行かれます。この神さまのお働きにのぞみ会をおゆだねします。」

今回のバザーを通し、のぞみ会に連なる鎖の一つとして、人ではなく神さまにのぞみ会をゆだねられた創設者の信仰に触れる機会を与えられました。改めまして望みの門バザーに関わってください、お一人おひとりに心からの感謝をいたします。



望みの門 事務局

ISO9001

維持審査に合格！

嘱託 菊地 正弘

昨年、ムーディ・インターナショナル・サティファイケーション(MIC)により、ISO9001を認証取得後、丁度一年が経過、

この度、第一回目の維持審査が五月九日に実施され合格しました。この維持審査は、本規格の認証有効期間中、毎年実施され、不合格の時は再び認証審査を受けるか、または認証取消しの処置となります。

今回は、紫苑荘を主体に、全体の品質マネジメントシステムが機能しているかどうか、MICより審査員二名が来訪され、詳細な審査が行われました。結果は、品質マニュアルに違反しているような不適合事項はありませんでしたが、観察事項として「職員の教育訓練に関して、その有効性評価の検討改善」他二件の指導がありました。

また、優れた点として①「自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ。」というキリスト教の教えを基本理念として、利用者の人格を尊重した福祉サービスの提供を心掛けていること。②内部品質監査の実施や改善活動の推進等四件を挙げて頂きました。

今回の維持審査は、主に楽生園と居宅サービス部門が対象予定ですが関係者一同、引続きPDCA(計画・実行・チェック・改善)の向上に努力してまいります。

望みの門新生舎

平成十九年度 安全衛生優秀職場に！

ISO9001の認証審査時に安全衛生。パトロールの実施について指導があり、早速、昨年六月から「安全衛生委員会」(委員長・井本常務理事)を発足し、望みの門全職場を対象に運営会議後、職場巡視(月一回)を実

施してきました。

職場の5S状況や地震対策等多数の指摘事項に対して、望みの門新生舎が積極的に取組まれたことが評価され、五月二十四日の創立記念式典で木下理事長より表彰状と副賞が授与されました。

本年度も継続実施しております。

婦人保護施設

望みの門学園「軽井沢の家」

綺麗になつて

皆様のお越しを待っています。

作業指導員 吉田 恵子

シーズンを目前の七月四・五・六日に軽井沢の家へ、利用者さん五名と園長と共に清掃の為に向きました。

好天に恵まれ、到着早々、玄関から入口までの草取りをしました。涼しいはずの軽井沢でしたが、その日は東京で三十一度を記録したとニュースで報じていました。着替えた長袖シャツをまくり上げ、皆んなで汗を流しました。

次の日は、布団干しや窓拭き等、隅々までの大掃除です。ボランティアで参加してもらった五名の皆さんのおかげで、それは綺麗になりました。

その後、窓枠のペンキ塗り、白いフェンス

を作り、可愛いお花も植えました。夜は自由時間です。花火とトランプで遊びました。

「ババぬき」「七並べ」でこんなに盛り上がり、楽しんだのは初めてでした。ちょっと夜更かしをしてしまいました。

旧軽井沢銀座は、軽井沢の家から徒歩十分で行く事が出来ます。私達も皆んなで散策して来ました。夕方だったので、観光客でとても賑わっていました。そんないい場所にその家はあるのです。

見上げるほどの高い木々、川のせせらぎ、すがすがしい空気を胸いっぱい、家も私達もリフレッシュして学園に帰って来ました。ご家族や、お友達を誘って一度行ってみませんか。皆様のご利用をお待ちしています。



特別養護老人ホーム

望みの門紫苑荘

暑い夏を迎えて



健康管理室長 長谷川 容子

また、暑い夏がやってきました。紫苑荘で暮らすお年寄りにとっては、辛い季節です。

暑さのために食欲が減り、体力が減退してしまいます。水分も不足し、体調を崩すことも多くなります。また、暑いことを自覚できずに寒いと感じ、衣服を脱ぎながら汗をかいて、汗疹を作ってしまうこともよくあります。自ら訴えることが困難な利用者さんが快適に過ごすことが出来るよう、目配り、気配りが大切であると実感しています。

縁あって、私が望みの門の扉を叩いたのは三年半前です。病棟勤務の看護師の経験しかなかったのですが、施設看護師の仕事に興味を持ち採用の面接に伺いました。

初めは病棟看護とのギャップに戸惑うばかりでしたが、スタッフの皆さんに支えられ、三年の月日が流れました。

思えば、いろいろなことが起こりました。すぐに医師に指示を仰ぐことの出来ない責任の重さに押しつぶされそうになったことも何度もありました。病院では経験したことのない、感染症との闘い、すぐに感染してしまってお年寄りの繊細さに驚くこともしばしばでした。

そんななかで、紫苑荘で看取った利用者さんも何人もいらっしました。

今では、暑くなると、皮膚トラブル、食中毒を危惧し、寒くなれば、上気道感染、インフルエンザ、ノロウイルス、etc... 自然と気になってしまうようになりました。

後期高齢者制度などで、お年寄りがますます暮らしくらくなっている世の中で、利用者の方、及びご家族の方が、紫苑荘にいることができてよかった、と思っていただけのような介護・看護を介護士さんをはじめ他職種の方々と一緒に協力して行っていきたいと思うこのごろです。

養護老人ホーム

望みの門 楽生園

料理クラブ



相談員 渡邊 由佳

楽生園の職員として働き始めて一年と数ヶ月が経ちました。初めは様々な事が新しく、新鮮でしたが、近頃は利用者の皆様の生活に少しずつ溶け込んでいけるように感じます。さて今回は最近の楽生園の利用者の皆様の様子を報告させて頂きたいと思います。楽生園では賛美歌クラブやお茶クラブなど何種類かのクラブ活動が行われていますが現在活発に活動しているクラブが料理クラブです。しばらくは活動を休止していたのですが六

月に再開し、食堂にて月一回、担当支援員と栄養士を中心に料理好き（食べる事が好きな参加者がほとんどですが）な利用者が集まり、料理作りとその後の試食を楽しんでいます。再開後第一回目の料理は『たこやき』でした。職員が持ち寄ったたこやき機を使用し、中身はたこ以外にもお餅やチーズ、ソーセージなど様々な具材にチャレンジしました。通常の食事では調理から盛り付けまで全て調理員の方にやって頂いていますが、一生懸命にたこやきをひっくり返したり、お皿に盛っている姿はとても新鮮で普段は見られない一面を見られた様に感じました。また試食では、普段の食事はあまり召し上がらない利用者の方が「おいしい。おいしい。」と一皿をぺろっとたいらせておかわりを待つ姿や、行事にあまり参加した方がらない方が自ら進んで楽しそうに参加している姿も見ることが出来ました。普段はあまり口にするここのない食べ物でしたが、大好評のうちに終了する



知的障害者通所授産施設

望みの門 新生舎

気持ちも新たに



施設長 三橋 信康

梅雨明けが待ち遠しい季節となりました。本年度、新生舎は利用者三六名、職員一四名の体制で新年度のスタートを切りました。施設現場では、障害者自立支援法が施行されてから毎年毎年その対応に追われているのが現状です。更に今年度は「自立支援法の抜本的見直し」を一年後に控え、昨年以上にこの法律に振り回されるのではないかと危惧をしています。

新生舎の授産部門では、昨年同様エコクラ

事が出来た為に早速第二回料理クラブを開催し『クレープ』を作りました。具材はあんこや生クリーム等の甘い物からハム等、様々な食材を揃え、クレープを焼いたり好きな食材を包んだり利用者様同士でも出来ない所は協力し合いながらわいわいがやがやと料理し、召し上がりました。

クラブ活動では普段は見られない意外な一面や満開の笑顔に出会う事が出来ます。食の大切さも実感しました。今後も利用者様が楽生園の生活の中で楽しみを見つけ、笑顔で過ごせるように様々なクラブ活動や行事を実施して行きたいと思っています。

DL等の確立を支援の重点に置き社会生活技能の向上を目指します。そのなかで「生きる力」「暮らす力」「働く力」を育み、利用者一人ひとりがその人らしく地域で生活できるよう支援にあたりたいと思います。

さて、前号でもお知らせいたしました、今年から新生舎では新規事業として「米作り」に取り組むこととなりました。一度荒らした農地



ブ・おりひめ俱樂部・のぞみベーカーリーの三部体制とし、利用者の適性・能力に応じて作業の提供を行うとともに働く意欲の向上、労働習慣の確立、作業技術の向上を目指します。生活支援としては基本的生活習慣・A

を復元するには多くの労力と時間がかかることを実感した三年間ではありましたが、ようやく五月五日に田植えを迎えることができました。当日は法人理事、各施設長の臨席を賜り、井本常務理事の司式のもと厳粛な「田植え式」を行い無事に米作りの第一歩を踏み出すことができました。弱々しかった苗も現在では緑も濃くなり順調な生育を見せてくれています。毎日の水管理が欠かせず、除草、施肥等八十八の手間をかけてようやく「米」になるのだなと改めて実感しているところです。秋には黄金色の実りにと夢はふくらむばかりですが、まだまだ気を許さず大切に見守って行かなければというところです。

この新生舎の小さな取り組みがやがて大きな輪となり地域の活性化や環境改善へと繋がることを期待します。

一体型共同生活介護事業所

グレースホーム

笑顔に感謝

世話人 浅井 造

毎年恒例の夏季親睦一泊旅行が、七月五日、六日、久しぶりに井本常務理事参加のもと行われました。場所は、昨年と同じこいの村たてやまです。

グレースホームで生活する利用者にとって旅行とは、日常を離れ普段と違う環境に身を置くため不安もあります。しかし、みんなでバスに乗り、ゆっくりお風呂に入り、宴会ではおいしい料理に盛大なカラオケ大会と、職員の心配は杞憂に終わりました。そして、そこには旅行を心から楽しむみんなの笑顔がありました。「笑顔は万国に通じるパスポートである。言葉と思想の違う人間同士の心を開かせる鍵である。」と、ホンダの創業者本田宗一郎の言葉があります。動物の中で笑うのはヒトだけであり、笑顔というサインは、雄弁に言葉を越えて「あなたに敵意はありません。あなたを信頼しています。あなたの友達で



す。」などのOKサインであり、まさしく人間のコミュニケーションの手段です。特に知的障害のある方とのコミュニケーションは、まず笑顔から始まります。彼らも自らそのことを感じていると思われれます。

今回の宴会の席で、一人の利用者が、本当に満面の笑みで、「今年も恒例の一泊旅行となりました。大いに楽しましよう。カンパニー！」と見事に乾杯の音頭をとることができました。誰もが緊張する場面ですが、爽やかで、心の和む乾杯でした。彼が、人を笑顔にさせることがこんなにも簡単にできたとは……。

私たち職員は、毎日本当に忙しく働いています。ある職員の言葉に「忙しいとは読んで字の如く、心を亡くすこと」とありました。今一度、そのことを忘れずに、心からの素直な笑顔を持ち続けながら、毎日の業務に従事していきたいとあらためて感じました。

心からの笑顔に感謝

地域活動支援センター

望みの門 ヨカデイサービスセンター

活動のようす

副主任指導員 南雲いずみ

今年も暑い夏がやってきますが、利用されている皆様は、今日も笑顔で来所してきます。

月二回の予定で、地域のクリーン活動を再開しました。たばこの吸い殻や空き缶などのゴミで、富津市のボランティア用ゴミ袋はアツという間にいっぱいになります。「ゴミの



ポイ捨てをするマナーの悪い人がいるんだね」「ゴミ箱に捨ててほしいよね」と話しています。小さな活動ですが、続けて行きたいと思っています。

また、皆様が楽しみにしている活動に調理実習があります。「何を作ろうか」の話合いは、沢山の意見がでます。好きな料理、作ってみたい料理、作った事のある料理など、いろいろです。基本は、畑で採れた野菜を使って作ることにしています。小さな畑ですので、まかない切れない野菜は、新生舎の野菜を利用しています。前回のメニューは、「にぎやか冷やし中華」「茄子の煮物」「あさりのスープ」「メロン」でした。全工程を一人で行うことはできませんが、それぞれの部分ではプロ級の腕前を発揮し、協力して作り、おいしくできた料理をいただく事ができました。感想は、「おいしかったね」と幸せの笑顔です。これから、ご利用くださる皆様が、笑顔になれる活動を提供していけるように努めたいと思っています。

通所介護

望みの門 デイサービスセンター

信頼される地域資源として、
更に利用者増を目指す。

副施設長 小幡 太一

介護保険の提供面での基本理念は「自立支援」です。この「自立支援」の理念から、介護が必要になった人の持つ人生観・価値観が尊重される生活を継続していくためには、「可能な限り居宅での生活を継続すること」が目標とされるのは当然です。居宅での生活こそが、その人の人生観・価値観を尊重した生活を最も送りやすい環境であることはいまでもありません。それゆえ通所介護、訪問介護などの居宅サービスの担う役割は重要なものとなっています。

望みの門デイサービスセンターは通所介護事業所として、高齢者の方々の、日常生活の活性化、身体機能の維持向上のための様々な介護サービスを提供するとともに、微力ながら介護をされているご家族の方々の身体的・精神的な負担の軽減のお手伝いをさせていただいております。

しかしながら、地域ケア、在宅ケアの重要性から通所介護、訪問介護事業所等の数が増加している中、事業所間の競争も激しくなってきたおり、在宅三部門においても、なかなか利用者増につながらないのが現状です。

そこで、六月に在宅三部門の職員参加により「収益増に向けた経営戦略会議」を開催し、利用者の増加に向けた具体的な行動計画を策定、それに基づく日常活動の推進を図っていくこととしました。

利用者増は単に利益の追求にとどまらず、環境整備などを通して利益を利用者に還元することにより更に良いサービスの提供が可能になるということでも意義あることです。

また今般、「もう少し遅くまで利用させて欲しい」との要望も聞かれるようになり、早速検討し、七月より利用時間を二時間延長し一八時まで利用可能にしたところ、現在七名の方が時間を延長して利用されております。今後も、常に利用者のニーズに応え、「利用者にとって良い介護の提供」に努めることにより地域の資源として信頼され、更に多くの利用者を選ばれるデイサービスを目指していきたいと考えております。

児童養護施設

望みの門かずさの里

里の夏



児童指導員 荒井 久美

長い梅雨も明け夏空のまぶしい季節となりました。子どもたちが首を長くして待っている夏休みももうすぐです。

小学生はもうすでに、クワガタやカブトムシ採りに夢中です。休日ともなると朝早くから起きだし、泥だらけになりながら里の山林を「カブト虫探検隊」と称して駆け回っています。子どもたちの生き生きとした表情を見ますと、山のようになった洗濯物も何のその……苦になりません。身近に自然と親しむことの出来るこの里の環境に改めて感謝しています。

そして、中学生は暑い夏をそれぞれの部活に燃えて過ごしています。もうすぐ行われる総体に今気持が集中しています。猛暑の中、一日中外で汗を流し、真っ黒になり帰ってくる子どもたちには、自然と「負けるな！頑張れー」と叫びたくなります。厳しい練習に日々耐えることで、精神的な成長、より逞しくなることを期待するとともに、頑張っている一人ひとりの姿をとっても誇らしく思っています。

また、四月より高校生となった三名の内二名が、六月よりアルバイトを始めました。初めての社会体験に、不安と期待とでかなり緊張していたようです。送り出すスタッフも、きちんと出来るかな？言葉使いは大丈夫かな？続けられるかな？等々、親同様に心配が尽きませんでした。今は日増しに自信をつけ、落ち着いて通っています。夏はバイトに専念し、お金を沢山稼ぐのだとか……。

夏休みは、海、プール、花火、キャンプ等沢山の行事を予定しています。また、今年度に入り、体育館裏に畑を作りました。夏野菜

を収穫しバーベQをやるという計画もあります。子ども三〇人の大家族が、この夏を協力し合い健康に楽しく過ごせるようにと、スタッフ一同今からドキドキしています。普段グラウンドでは小学生から高校生まで一緒に楽しくサッカーをしています。大きい子が小さい子の面倒をよくみます。とても微笑ましい姿です。この夏にまた絆が深まればと思います。

一方私たちスタッフは、家庭生活が希薄な子どもたちが家庭らしさを実感できる暮らしに向け、日々努力しています。昨年は暖かみのある畳の空間を作り、現在子どもたちのくつろぎのスペースとなっています。「子ども三〇人の大家族」の思いで、家庭らしさ、家族らしさを物心両面で整え、「里での豊かな暮らし」を創っていきたいと思います。昨年九月より里のスタッフとなった私は、その思いからか？里に住んでいるかのようにです。（気がつくとき里にいる時間の長いこと……！）それは余談ですが、子どもたちの人生は始まったばかりです。暮らしの中の沢山の経験が子どもたちをより大きくしてくれそうです。

沢山の経験と沢山の見守りの中で大きく成長して欲しいと願います。



児童自立援助ホーム

東京望みの門 マナの家

新たな出発

生活指導員 長崎 淑子

マナの家は一五歳から二〇歳までの少女たちのホームですが、妊娠を経験してきた子どもが少なくありません。しかし出産にまで至ったのは極わずかです。

勝気で明るく元気の良いY子は一八歳で出産し、母子分離でマナの家によって来ました。本人も母子家庭で育ち、実母が男性と同居したことに反発し、「嫌ならお前が出て行け」といわれ、一六歳で家を出ることになってしまいました。住み込みで働いていた職場で知り合った男性と付き合ひ、妊娠し結婚したものの、その後二人とも仕事も住まいも失ひ、マンガ喫茶などを転々としながら出産の日を迎えます。妊娠中一度も診察を受けることも出来ずに過ごし、その日もマンガ喫茶から救急車で運ばれてFちゃんを出産したのです。しかし面会に来るはずの夫は覚醒剤で逮捕され、実母からは「子どもを自分できちんと育てなければ認めない」と突き放され、精神的に落ち込んでしまいます。それが身体症状に出たため、本人の意に反して母子分離という措置がとられたのです。

マナの家に来ても、お金を貯め早く子どもと一緒に暮したいという思いを強く持

ち、いくつか仕事を変えながらも頑張っており、子供との面会も定期的に続けてきました。しかし、焦りの気持ちばかりが先行し、もっと収入の良い仕事をするや派遣の仕事を見つけ、在寮一ヶ月で地方へ出て行ってしまいました。当然子どもとの定期的な面会は出来なくなっていました。私たちには、Y子自身の中の未発達な子どもの部分が、「お母さん、私こんなに頑張っているのにどうして認めてくれないの」と叫び声を上げているのが聞こえて来るようでした。

先日二歳になったFちゃんの誕生日を、Y子と同時期に寮していた数名の少女たちと一緒に祝うことが出来ました。そしてこれまでに、子どもは自分が引き取って育てると頑なに言っていたY子ですが、児童相談センターなどの働きかけにより養育家庭に出す決心をしたのです。まだまだ紆余曲折あると思いますが、これからのY子とFちゃんそれぞれの新しいスタートを見守っていききたいと願っています。

中核地域生活支援センター

君津ふくしネット

今、木更津駅前が面白い

センター長 佐野 毅

私たちの「中核地域生活支援センター君津ふくしネット」は、JR木更津駅・西口駅前

の「アクア木更津ビル」の八階に位置しています。

この八階には、木更津市役所が第三セクター方式で運営する「木更津市テレワークセンター」のオフィスや、パソコンが自由に使えるIT会議室があり、また地域のNPO法人が運営する「精神障害者共同作業所hana」や「フェアトレードカフェ」(店長は障害者がありながら自立を目指して頑張っている青年です。)、生きづらさを感じながらも当事者同士で支え合いながら「自分たちの居場所」づくりに取り組んでいる障害当事者団体「よろずや」などがあり、毎日、子どもからお年寄りまで、たくさんの笑い声が飛び交い賑わっています。

情報によると、今年度中に、このビルの中に「ハローワーク(公共職業安定所)」もオープンする、とのこと。また「会員制フィットネスクラブ」もオープンするなど、今、木更津駅前がにわかに面白くなってきました。「中核地域生活支援センター君津ふくしネット」も、この「アクア木更津ビル」の発展とともに地域に根ざして早三年半が経ちました。

「誰もが、ありのままに・その人らしく、地域で暮らすことができる」新たな地域福祉像の実現を目指して、職員一同切磋琢磨いたします。



望みの門福祉学校

ホームヘルパー2級養成講座

校長 佐野 毅

今年度の「ホームヘルパー2級養成講座」は、一七名の受講者を迎えて開催しました。このうち、法人職員三名および望みの門学園の利用者四名が、地域の方々と一緒に机を並べて学んでいます。五月から八月末まで、週に一回の間隔で開講中です。ありがたいことに、受講後は「特別養護老人ホームで働いてみたい」、「望みの門のホームヘルパーとして働いてみたい。」というお申し出を何件かいただいております。

今、福祉の世界は、施設における福祉の充実もさることながら「在宅」での福祉、在宅介護の充実が叫ばれて久しいですが、それを支える「人材」不足の問題も深刻な問題として顕在化しています。

福祉や介護を「仕事」として目指す方々、特に高校・大学を出たばかりの若い方々が、理想と希望を持って、胸を張ってこの仕事に従事できる環境を整えていくことが、私たちに課せられた使命であると心得ています。

そのための第一歩として、望みの門では、施設の専門機能を充分に発揮した地域貢献事業の一環として、「デイサービス」や「短期入所」、「介護相談」、「日中一時支援事業」など、ご本人様のみならず、在宅で昼夜を問わ

ず、お年寄りや障害のある方々を介護されておられるご家族に対する支援の充実も図っています。

また、地域の方々に對しましても、「介護」や「老い」の問題を身近にとられていただけるように、と「介護教室」の開催なども予定しています。

それと同時に、小・中学生ら次代を担う子どもたちに対して、「福祉」や「介護」を身近に感じてもらえることをねらいとした「ジュニア福祉塾」の開催も検討しています。

これからも、地域の方々と共に、「地域に根ざした福祉施設」でありたい、という思い

と、次の世代を担う若

者の「人材育成」のた

めの機関で

ありたい、

という思い

を糧に、残

りの半年間

を精一杯ご

奉仕させて

いただく所



編集後記

★通勤電車から学生の姿がなくなり、富津海水浴場には若者の歓声が響く八月。かずさの里の子どもたちも豊かな房総の自然に囲まれ、元気に夏休みを過ごしている。

★今号の巻頭言は坂本監事に玉稿を頂戴した。現場の声を代弁していただき感謝。我々も犬の遠吠えにならぬよう、精一杯より良いサービスの提供に努めよう。

★望みの門紫苑荘個室等増築及び避難路耐震工事が順調に進められている。工事の安全が守られるよう、またご不便をおかけする利用者の皆さまの平安を心から祈る。

★北京オリンピックの結団式で、日本代表選手団の主将となった男子柔道の鈴木桂治選手は「栄光を勝ち取る決意を持ち、各国選手との友好を深め、世界平和に貢献することを誓います」と決意表明を述べた。

ともするとメダルばかりに注目が集まるが、改めてこの月平和について考えてみたい。(T2)

